

# 農繁期 レポート 令和3年 7月号

## 栄ファーム

|      |           |
|------|-----------|
| オーナー | 栄運輸工業株式会社 |
| 水田面積 | 18.4アール   |
| 保証量  | 玄米 828kg  |
| 形態品種 | 特別栽培コシヒカリ |



## 生産者 三上 惇二 (エコファームグループ代表)

中干しに入った時にはまだ梅雨も明けず梅雨が明けても夕立がたくさん来る日が続いていました。中干し後半には快天続きでしっかりと中干しができ、分ケツも適度な数で止まりました。7月は部分的に増殖したホタルイやクログワイ等の雑草の除草を中和剤を使用し行いました。田んぼの中に少しあってもこれらは稲が無くなるほど栄養を奪ってしまいます。これからは穂が出ますので冷たい水をかけ流しながら稲を冷やしてあげてケタの草刈りをしてカメムシ防除の準備もしています。

### 7月の作業内容と稲の成長

#### 1. 中干し (なかぼし)

6月下旬にピークを迎えた稲の生長(分けつ)を田んぼの水を抜いて、土にひび割れができるまで乾かすことを“中干し”と言います。この作業でしっかりと乾かすことで稲の倒伏を防ぎ、稲刈り作業をしやすくする効果もあります。



#### 2. 除草剤散布

雑草は病害虫よりは影響は小さいですがが放っておくと一気に繁殖し、作物から水分・養分などを奪うため品質低下など大きな被害をもたらします。また病害虫の温床になるので田植え直後の散布で出てきた場合は、2回目を行います。



#### 3. 冷水のかけ流し

穂が出て開花するまでが一番水を必要とします。また高温状態が続くと、白いお米の「高温障害」が発生する可能性があるため冷たい水を稲に掛け流し、地温を下げて稲の消費を抑えることで、品質低下の度合いを減らします。



#### 4. 草刈り

5月～8月までに多い時は1水田に数回の草刈りを行っています。刈っても刈っても生えてくる草の生命力と農家さんは毎年闘っているのが現状です。遮るものが何もない水田での日中の草刈りは相当体力を使います。

